

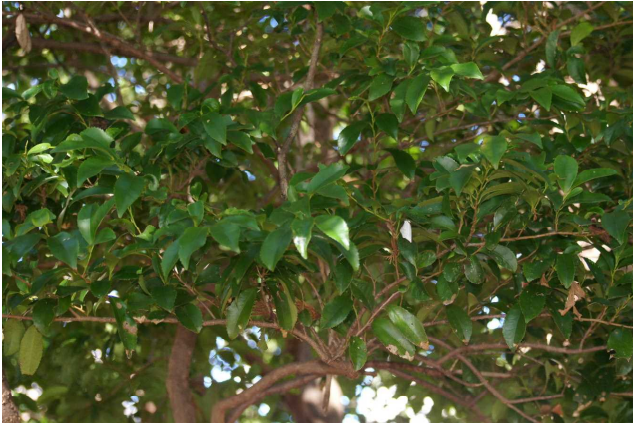
牛久：学校周辺に見る自然

第23号 みずべ公園（ひたち野うしく小）

2020年2月9日発行

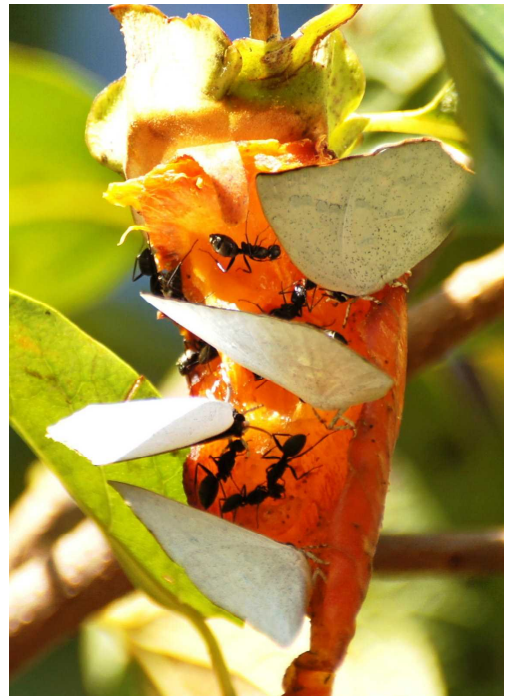
＜ 冬のみずべ公園 ～①ウラギンシジミの成虫越冬 ^{せいちゅうえつとう} ＞

こんにちは。2月4（8℃）、6日（4℃）に、ひたち野うしく小4年生とみずべ公園を歩いてきました。見せたかった生きものの一つがこのウラギンシジミですが、4日の2，3，6組の時には見つからず、6日の残り3クラスの^{かんさつ}観察でようやく見つけました。以前はみずべ公園ではたくさん見つけましたが、私の老眼の^{ろうがん}せいでしょうか？ 子ども達にも簡単に見つけられなくなっていることを考えると、他に原因がないか考える必要があるのかもしれない。



みずべ公園のヒサカキで見つけた、ウラギンシジミ。 ^{しやしん}どこにいるか、^{かくだい}分かりますか？ 右の写真は、その拡大。

さて、このウラギンシジミ、シジミチョウ科の仲間^{なかま}で、はねの裏側^{うらがわ}が銀白色^{ぎんはくしょく}なのでこの名がつけました。秋の^{かんさつ}観察では雌雄^{しゆう}ともに見られましたが、はねの表側^{おもてがわ}が雄はオレンジ色^{おす}の模様^{もよう}があるのに対し、雌では淡い水色～白色^{めす}。花の蜜^{あわ}を吸^{みつ}っている姿^{すがた}はめったに見ませんが、熟^{じゆく}しすぎたカキの汁^{じゆ}を吸^{しる}っているのがよく見られます。時には、動物の糞^{ふん}についていることもあります。ふだん花の蜜^{みつ}を吸^すっているチョウでも、繁殖^{はんしょく}のために泥水^{どろみず}や動物の糞^{ふん}、死体^{しる}から汁^すを吸^{ちゆうい}うものもいますので、注意^{かんさつ}して観察しましょう。冬には、ヒサカキやツバキ、シラカシなどの常緑樹^{じようりよくじゆ}の葉の裏^はでじっとしています。こうして雨や風を避けながら、エネルギー消費^{しゆうひ}を抑^{おさ}えて冬の寒さ^{かんそう}や乾燥^{かんそう}をしのいでいるのでしょ。中には、冬を越せず^こに落ちてしまうものもいます。さわ^{さわ}らず静かに^{かんさつ}観察^{かんさつ}しましょう。 【理科支援員：宮内】



秋のウラギンシジミ。 ^{おもて}はねの表^{おす}は、雄はオレンジ色（左 2019.11.05 みずべ公園）、雌では淡い水色の模様^{めす}がある（中 2019.10.31 みずべ公園）。 ^{あわ}過熟^{もよう}のカキなどの汁^{あわ}を吸^{もよう}う（右 2018.10.21 茨城県自然博物館）。